

平成 24 年度 医動物・種類同定検査のまとめ（4～6 月）

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成 24 年 4 月から 6 月の種類同定検査件数は、8 件でした。すべて昆虫類で、内訳はハエ目(4 件)、チョウ目(2 件)、コウチュウ目(1 件)、チャタテムシ目(1 件)でした。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
ダイニングキッチン の椅子にみられた	 成虫、褐色、約 1mm	ヒラタチャタテ (チャタテムシ目コナ チャタテ科)	穀類や貯蔵加工食品（乾めん、ビスケット、干し魚など）、穀類や貯蔵加工食品（乾めん、ビスケット、干し魚など）を加害する。多湿を好み、カビを食べる。屋内に生息する最も普通の種。 世界各地に分布する。
家の周辺で大量発生 した	 雄成虫、黒色、約 13mm	ハグロケバエ (ハエ目ケバエ科)	幼虫は樹木の落葉層に群生する。 幼虫で越冬し、春に蛹化、成虫は 4～5 月にみられる。 本州から沖縄まで分布する。
家の周辺を大量飛翔す る	 雄成虫、黒色、約 13mm	ハグロケバエ (ハエ目ケバエ科)	幼虫は樹木の落葉層に群生する。 幼虫で越冬し、春に蛹化、成虫は 4～5 月にみられる。 本州から沖縄まで分布する。
店舗内で幼虫がみら れた	 幼虫、黒色、約 18mm	ミアメリカミズアブ (ハエ目ミズアブ科)	幼虫は畜舎、ごみ溜めなどから発生する。 成虫は植物の葉の上で休む。 本州、沖縄で普通にみられる。
自宅周辺を多数飛翔 している	 雄成虫、黒色、9～11mm	メスアカケバエ (ハエ目ケバエ科)	幼虫は森林内で落ち葉などを食べて生活する。 成虫は早春に平地や低地山に出現し、群飛する。 日本全土に分布する。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
玄関やガレージの壁に幼虫がみられる	 <p>成虫、茶褐色、約 13mm</p>	ウチジロマイマイ (チョウ目ドクガ科)	幼虫あるいは卵で越冬する。 幼虫は春と早秋に見られる。 幼虫はほとんど繭を作らず、蛹化する。 住宅地内のヒノキ、ビャクシン、ハイビャクシン等の樹木に発生する。 日本全土に分布する。
玄関の縁(木製)に幼虫が付着	 <p>成虫、茶褐色、約 13mm</p>	ウチジロマイマイ (チョウ目ドクガ科)	幼虫あるいは卵で越冬する。 幼虫は春と早秋に見られる。 幼虫はほとんど繭を作らず、蛹化する。 住宅地内のヒノキ、ビャクシン、ハイビャクシン等の樹木に発生する。 日本全土に分布する。
家の周辺を大量飛翔する	 <p>成虫、黒色、約 13mm</p>	ムツヒゲキクイゾウムシ (コウチュウ目ゾウムシ科)	スギ、ヒノキ材の腐食部に生息する。 本州、九州に分布する。

【 検査研究課 医動物担当 】